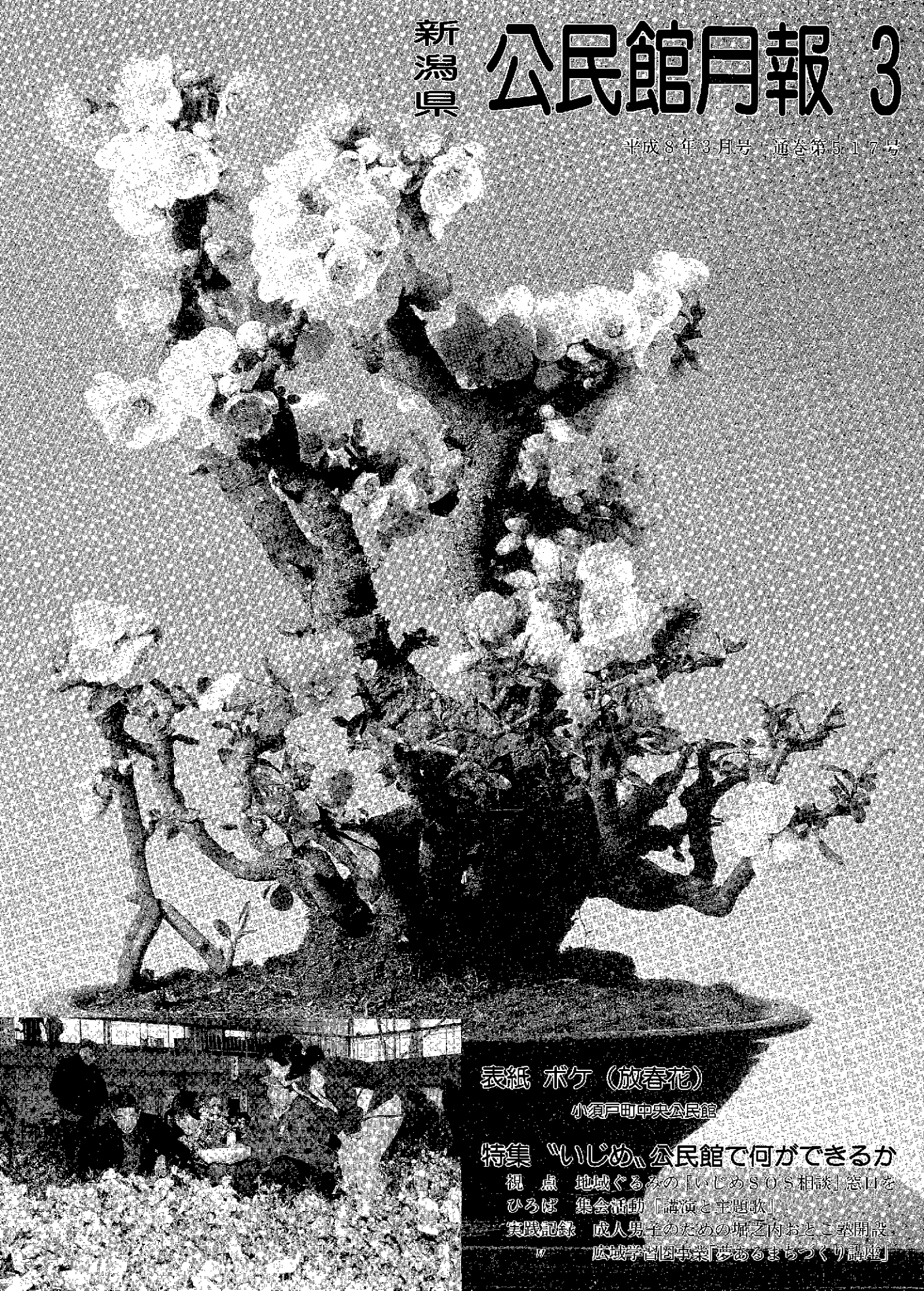


新潟県

公民館月報 3

平成 8 年 3 月号 通巻第 517 号



表紙 **ボケ (放春花)**

小須戸町中央公民館

特集 **「いじめ」公民館で何ができるか**

視点 地域ぐるみの「いじめSOS相談」窓口を
ひろば 集会活動「講演と主題歌」

実践記録 成人男子のための堀之内おとこ塾開設
広域学習団卒業「夢あるまちづくり講座」

第2回編集委員会終る

来年度の特集テーマを検討

表紙のイメージチェンジは成功

二月九日(金)、午後一時半から今年度最後の編集委員会が、新潟市中央公民館で開催された。委員のうち、飯酒孟茂委員(塩沢町公民館長)が豪雪のため欠席のほか全員出席で、活発な意見交換があった。

見がとび交った。会議は「公民館月報」の編集に関するもので、平成七年度の反省と来年度に向けての特集記事の取り扱いについての意見交換があった。

関プロ公連理事會報告

公民館の役割や事業展開に関する内容に焦点をあてた編集となる。したがって、暮らしの今の今日的な課題がテーマとして一層色濃く取り上げられることになる。

第37回研究大会は鬼怒川温泉で

8月29日(木)30日(金)と決まる

去る二月十四日(水)、栃木県小山市の生涯学習センターを会場に、関東甲信越静公民館連絡協議会理事會が開催された。

主要議題は、第十八回全国公民館研究集會兼第三十六回関東甲信越静公民館研究大会の決算報告ならびに、来年度の関プロ公研集會の開催要項の審議にあった。このうち、全国公研集會の決算報告は満場一致で承認。

つづいて、来年度の関プロ公研集會については、会場は栃木県鬼怒川温泉あさやホテルに全員宿泊する。参加費は三千円(資料代、報告書代)、宿泊費はほぼ

分科會は、全部で十六部會が割り当ては、家庭教育分科會で家庭の教育力を高める事業、いじめ問題への取組など家庭教育の在り方に関する部會である。基調提案発表者と司會者、助言者の三者セットで当たるものである。

なお、栃木県方式は、参加予定者千五百人が同一旅館に宿泊し、一堂に會して意見を交換しあう方式を採用するユニークな計画になっている。

私が参加した部會は「ボランティア活動を助長する事業」の部門でした。事例発表は、秋田県大館市中央公民館長と滋賀県日野町立必佐公民館長の二人で、先進的な事例発表に敬服しました。特に、大館市のボランティアの掘り起こしに関する事例を拝聴して、当新潟市石山地区においても、文学・芸術面で眠っている人材が多いことから、ボランティア活動に参加する人たちの掘り起こしに力を入れないといけないことを痛感しました。

第7回全国公民館

セミナー参加印象記

新潟市石山地区公民館

井川 庸

がご一緒で心強く感じました。

私が参加した部會は「ボランティア活動を助長する事業」の部門でした。事例発表は、秋田県大館市中央公民館長と滋賀県日野町立必佐公民館長の二人で、先進的な事例発表に敬服しました。特に、大館市のボランティアの掘り起こしに関する事例を拝聴して、当新潟市石山地区においても、文学・芸術面で眠っている人材が多いことから、ボランティア活動に参加する人たちの掘り起こしに力を入れないといけないことを痛感しました。

各地の方たちと情報を交換しあったことが印象的でした。職場の人数や施設の違い、担当している事業についての話し合いなど第7回セミナー生の仲間づくりも出来ました。また、素晴らしい講師陣の話、他県の事例研究等、これからの事業の参考になるものばかりでした。

特別講義で田畑彦右衛門氏の「生涯学習は、毎日が発見、毎日が感動」が心に残りました。

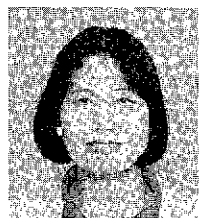
進」を根底に据えた、

本方針が確認された。

来年度の「特集」欄のテーマについては、公民館現場の強い要望により「生涯学習の推進」を根底に据えた、

まず、今年度の反省では、表紙のイメージチェンジが反響を呼び、各地の公民館関係者から好評の反応が多かったと委員各氏が異口同音に語っていた。

表紙絵については、未掲載市町村がまだ約半数残っている。来年度も現在の方式を踏襲することにした。その他のコラム欄も現状を踏襲しつつ、徐々に変えていくという基本方針が確認された。



かけがえのない子どもの命を守るために

いじめ問題に関する文部大臣緊急アピール

全国公民館連合会長から、このほど「いじめの問題に関する文部大臣緊急アピールについて」と題する文部省生涯学習局長通知が届けられた。そして、この「文部大臣緊急アピールについて」会員及び関係者に伝えられるよう御配慮をお願いするとしている。

あったら、教育委員会に問い合わせるとよい。
それによると、いじめ問題の解決のためには家庭・学校・地域社会が一体になった取組の充実に基本であるとしているが、けだし、言うまでもないことである。
地域社会の教育力の向上という課題は、PTAや青少年健全育成諸団体の活動の充実ということだけでなく、公民館もまた欠くことのできない機関であることを認識したいものである。

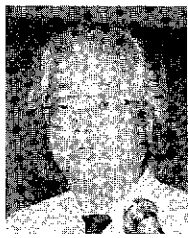
視点

いじめの問題が深刻化して行く中、「地域の力で一人でも起こさないように、ふやさない」と平成六年十二月に長峯小学校区の町内会が主体となって「いじめ・不登校SOS相談」窓口の設置を

学校や家庭では、地域力強いバックアップがあるの、安心して問題に取り組むことができます。
校区内の講演会・座談会には地域の人たちが

地域ぐるみの「いじめSOS相談」窓口を

丹羽 仁

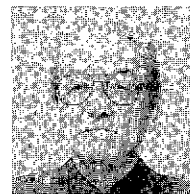


問題の早期発見・早期対応も大切な役割ですが、主たる狙いは未然防止にあります。地域に精通している人が相談に当たることにより、問題に迅速に対応できます。一方、

が大勢参加し、自分たち一人ひとりの問題として現状を正しく認識しています。つまり問題の対症療法から一歩前進した地域ぐるみの対策として理解しており、地域全体がこの問題

集会活動「講演と主題歌」

櫻井昭一



去年も他市町村の集いに参加する機会があった。頼まれ講師ということで、初めての方々は皆構えて見えるのが普通だ。

ところが、何の話だったのか、内容だったのか忘れてしまう人が大半になるようだが、話に主題歌を入れると、歌だけは覚えていくからありがたい。「面白い話だった」と、帰りに笑顔を見せてくれる人も多くいる。

ひろば

初めの土地へ行く時は、大抵テープコーダーとテープを一本持って行く。「演題はお任せ」と来るから、私のお話の内容にふさわしい主題歌を一曲勝手に決めて行く。PTAにはチューリップの歌、老人クラブには同級会音頭、婦人会には雪椿等話の内容と結びつくよう考えてのこと。

しかし、余り楽しくやると面白さだけが残ることもあるが、集会によってはこれもまた大事なことだと思う。
去年の夏、隣町の老人クラブの大会に招かれた。五百人もの会員に、一時間半の話に飽きないようにと顔を見て、動きを見て、しかも、論旨が逸れないようにと努力しなければならなかった。

集まった人達の顔を見て、動きを見て、話を運ばないと後になって残るものが何もなく、後には申し訳ないから、初めと終りにはみんな歌でも歌ってもらえるよう、プリントも用意し、開会前に配布してもらおう。
そんな仕掛で「話」は忘れても「歌」だけでも残っているように願っている。

常に、TVやビデオで面白く学んでいる皆さん、わたしは公民館人は生出演にもっともっと研修しなければと思う。やがて公民館も開館して半世紀、新しい活動を創造して行きたいと思う昨今である。
(神林村公民館 運営審議会委員)

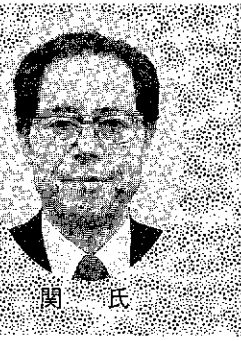
執筆者自己紹介

私は、教職にあったころに引き続き、登校拒否やいじめ等の悩みを持つ子供と、その保護者の相談にのっているものである。

また、公民館の家庭教育学級のお手伝いをさせて頂いたり、自主グループを育成しながら、社会教育の場でこれらの現象を防ぐ方途を模索している。

以下に述べることは、私のささやかな取り組みをもとにした一提案である。

私がこの原稿を書いている間にも、登校拒否やいじめに関する



関 氏

何ができるか

提案～

関 良 策

る電話や手紙が拙宅に寄せられその都度相談に応じている。

一、「自殺」の報道は慎重に

最初に指摘しておきたいのは「自殺の報道は慎重に」ということである。マスコミ関係者は、子供の自殺についてセンセーショナルな報道を絶対に止めてほしいものである。とりわけ、テレビの影響は大きい。子供たちは、新聞は見なくともテレビは見ています。自殺に用いた用具を画面に繰り返し映すなどのことは言語道断である。「自殺の教法教えます」と言っているようなものだ。戦後青少年の「自殺」は何度か「山」があった。その「山」を作った一端がコマージヤリズムのつた報道にあったことを忘れてはならない。

こんなことを、あえて冒頭に述べたのも、それだけ思春期の子供の「こころ」が繊細過敏で動揺しやすく、揺れ幅が大きいことを、まず念頭に置かねばならないからである。

二、いじめは見えにくい

いじめの問題を一国の首相が国会の施政方針演説で取り上げるほど大きな問題になっているにもかかわらず、いじめが一向に減らないのはどうしてであろうか。学校のいじめへの対応の

難しさもあるが、その前に、いじめは「見えにくい」ところにあるからである。

いじめている当人は、いじめの行為をしていないとは思っていな

い。(罪意識希薄) いじめに関わった子供の親は、ほとんど問題に気づいていない。子供との話し合いも少ない。多少気づいていても「子供にそれ

がなければ」と許容する。一方いじめられる方の子供は心の中で葛藤しながらも、なかなか両親や先生に打ち明けられない。だから学級担任もいつから始まっていたのかなかつかめない。いじめられている子供の親は、わが子の「言葉」をよりどころに分かろうとするから、実際サインを示していても見逃してしまう場合が多い。まして、地域の人は、子供が「群

〈表〉

文部省初等中等教育局中学校課が示した

五運動十六項目(平成八年一月二十四日)

「地域を挙げたいじめ根絶運動の参考例」

◆キャンペーン展開型運動

- ① いじめ根絶推進本部の設置
- ② いじめ根絶市民大会の開催
- ③ いじめ根絶都市宣言の採択
- ④ いじめ根絶強調月間の実施
- ⑤ ポスター配布、垂れ幕、アドバリンによる広報
- ⑥ 子供参加による「いじめ根絶、日市議会」の開催

◆既存組織活用型運動

- ⑦ 地域のスポーツ関連団体等の協力を得たいじめ根絶対策
- ⑧ 地域社会教育団体等の協力を得たいじめ根絶対策
- ◆人材活用型運動
- ⑨ 「いじめ根絶地域リーダー」人材バンク
- ⑩ あいさつ運動の展開事業連携展開型運動
- ◆事業連携展開型運動
- ⑪ いじめ根絶地域マスタープラン」の策定
- ⑫ スポーツ主体のプラン
- ⑬ 体験活動主体のプラン
- ◆意識啓発型運動
- ⑭ 地元メディアを活用したいじめ根絶の意識啓発
- ⑮ 青少年教育相談シンポジウム等の展開
- ⑯ 家庭の意識啓発及び連携推進会議の開催

◆意識啓発型運動

れ」て何かをしていることが見えても「ぶざけあい」だと思いいじめとは思わない。

また、いじめは見えにくい場所で行なわれるということである。登下校時、昼食休み、清掃後、トイレの中などが多い。これは逆に、いじめの発見や防止に生かされる視点である。

三、いじめの根つ子は深い いじめも登校拒否も単純な原因で起きるものではない。複合

的な要因が、長い間に深く絡りあって、現在のいじめ現象や登校拒否行動を起こしている。特にいじめについては、その根つ子は深い。それは、いじめ

る側の子供にも、いじめられる側の子供にも言える。つきつめれば、今日の子供は、今日の日本の社会と、適切とはいえない養育環境の「受難者」であると言ってもいい。

乳幼児期から青年期に至るまで、本人がはつきり自覚しないまま、知らず知らずに「他者依存」の心理を根深く持つようになってきている。

いじめられる子供の多くは、自己確立が不十分で、他人の存在を必要以上に気にかけて、受け身の行動様式を持ち、自己存在に自信がなく、自己肯定感が弱い。

いじめられる側の子供は、一部には、攻撃的な者もあるが、大部分はいじめを通して、「自分は強いのだ」と自己確立の材料にしようとする。つまり、弱い他人の存在をつっかい棒に、自立できない自分を支えようとする。

気持ちの上では、自分のストレスやフラストレーションを弱い者や異質と感ずる者を用いじめることで解消しているとも言えよう。

この「他者依存」の心理と「攻

特集 「いじめ」公民館で ～私の二つの 「ともに育つ会」カウンセラー

生した場合、地域にもメッセージをだすことが大切である。

が中心となったり、活動しやす
いように連携を図ったりするこ
と。要は、しっかりした支えの
ないところに地域の運動は展開
しにくいということである。

地域の各種社会教育関係団体の
活動の拠点となっている公民館
では、地域内で発生し得るいじ
めについて、座視することなく
地域の重大な教育課題として受
けとめ、「いじめを防ぎ、いじめ
をなくする視座」を加えて諸事
業を見なおすことができないも
のであろうか。文部省初中局中
学課程から「地域を挙げたいじ
め根絶運動の参考例十六項目が提
示された。是非参考にして頂き
たい。(表1参照)

この種のキャンペーン活動に
は、「いじめ地域フォーラム」「地
域の子供を考える懇談会」等の
フォーラム形式や、いじめ防止
のチラシ配布もあるが、ここで
効果的な手法の一つとして映画
会を例示したい。

公民館で出来る二つのアプ
ローチを提案する。

趣旨。「いじめについての理解を
深め、なくするための映画会」
などその趣旨を明確にすること
が大切である。

1、地域住民への啓発活動

主催。〇〇地区青少年育成協
議会、〇〇地区公民館など関係
機関や団体との連携を明示する
ことがより効果的である。

・絶対いじめは許してはな
らないこと。

映画。「やがて春」「先生あ
した晴れるかな」の二本のうち
のどちらかをお薦めする。この
映画は二本ともいじめをテーマ
にした中山節夫監督の映画で、
日本PTA、新潟県小中PTA
連合会推奨の映画である。映画
の開催に当たって、地域住民に
広く呼び掛けると共に、主催者
は「絶対にいじめは許さない。
理由の如何を問わず、自ら死を
選ぶことはあってはならない」
という共通のメッセージを明確
にして、参加者にアピールす
ること。さらに、各々の家庭に、

・理由の如何を問わず、自
ら死を選ぶようなことが
あってはならないこと。
を強く表明する。

①対象とする学級を三段階に分
ける。
ア 〇歳～三歳児までの親
イ 四歳～五歳児の親
ウ 六歳～十歳までの親

・この啓発活動は、公民館だけ
でいつも取り組まねばならない
ということではない。その地域
に組織されている、学校五日制
協議会や青少年育成協議会など

②押さえておきたい内容
・親子の基本的な信頼
・子供の社会性の発達、遊び
・子供理解の方法(実習)
・フラストレーションの耐性
・「ぼくはそんなに大事な存
在なのか」と愛されている
実感。
・自己肯定感を身に付けさせ
る
・いじめられていた時は、い
じめっ子を責めない。
③プログラムの組み方
・一カ月くらいの間をおき、

・絶対いじめは許してはな
らないこと。

④参加しやすいような工夫
・三歳児検診とのタイアップ
・保育園や小学校の参観との
連携。同伴する幼児の世話
をするボランティア制度の
工夫。

・理由の如何を問わず、自
ら死を選ぶようなことが
あってはならないこと。
を強く表明する。

②子育てサークルの育成充実
核家族の多い今日、子育てを
すべて家庭に任せるのは無理で
ある。「地域で支える」しかない。
同じ悩みを持つ親たちが集まっ
て、互いの子育て情報を交換し
あうだけでかなり気持ちが楽に
なる。そこにアドバイザー(カ
ウンセラーであればなおいい)
がいればよい。私自身も現在関
わりを持っているが、大変勉強
になる。「双子の会」「アトピー
の会」など現在県内に二百を超
える子育てサークルがある。行
政がこれを積極的に育成する施
策が今後強く求められる。
いじめを「自殺」の視点だけ
で見ないで、子供時代を豊かに
過ごさせる土壌づくりから始め
たいものである。
(筆者はあしたの新潟県を創る
運動協会事務局長)

・絶対いじめは許してはな
らないこと。

④参加しやすいような工夫
・三歳児検診とのタイアップ
・保育園や小学校の参観との
連携。同伴する幼児の世話
をするボランティア制度の
工夫。

・理由の如何を問わず、自
ら死を選ぶようなことが
あってはならないこと。
を強く表明する。

④参加しやすいような工夫
・三歳児検診とのタイアップ
・保育園や小学校の参観との
連携。同伴する幼児の世話
をするボランティア制度の
工夫。

・絶対いじめは許してはな
らないこと。

④参加しやすいような工夫
・三歳児検診とのタイアップ
・保育園や小学校の参観との
連携。同伴する幼児の世話
をするボランティア制度の
工夫。

・理由の如何を問わず、自
ら死を選ぶようなことが
あってはならないこと。
を強く表明する。

④参加しやすいような工夫
・三歳児検診とのタイアップ
・保育園や小学校の参観との
連携。同伴する幼児の世話
をするボランティア制度の
工夫。

・絶対いじめは許してはな
らないこと。

④参加しやすいような工夫
・三歳児検診とのタイアップ
・保育園や小学校の参観との
連携。同伴する幼児の世話
をするボランティア制度の
工夫。

・理由の如何を問わず、自
ら死を選ぶようなことが
あってはならないこと。
を強く表明する。

④参加しやすいような工夫
・三歳児検診とのタイアップ
・保育園や小学校の参観との
連携。同伴する幼児の世話
をするボランティア制度の
工夫。

・絶対いじめは許してはな
らないこと。

④参加しやすいような工夫
・三歳児検診とのタイアップ
・保育園や小学校の参観との
連携。同伴する幼児の世話
をするボランティア制度の
工夫。

・理由の如何を問わず、自
ら死を選ぶようなことが
あってはならないこと。
を強く表明する。

④参加しやすいような工夫
・三歳児検診とのタイアップ
・保育園や小学校の参観との
連携。同伴する幼児の世話
をするボランティア制度の
工夫。

・絶対いじめは許してはな
らないこと。

④参加しやすいような工夫
・三歳児検診とのタイアップ
・保育園や小学校の参観との
連携。同伴する幼児の世話
をするボランティア制度の
工夫。

・理由の如何を問わず、自
ら死を選ぶようなことが
あってはならないこと。
を強く表明する。

④参加しやすいような工夫
・三歳児検診とのタイアップ
・保育園や小学校の参観との
連携。同伴する幼児の世話
をするボランティア制度の
工夫。

・絶対いじめは許してはな
らないこと。

④参加しやすいような工夫
・三歳児検診とのタイアップ
・保育園や小学校の参観との
連携。同伴する幼児の世話
をするボランティア制度の
工夫。

・理由の如何を問わず、自
ら死を選ぶようなことが
あってはならないこと。
を強く表明する。

④参加しやすいような工夫
・三歳児検診とのタイアップ
・保育園や小学校の参観との
連携。同伴する幼児の世話
をするボランティア制度の
工夫。

・絶対いじめは許してはな
らないこと。

④参加しやすいような工夫
・三歳児検診とのタイアップ
・保育園や小学校の参観との
連携。同伴する幼児の世話
をするボランティア制度の
工夫。

・理由の如何を問わず、自
ら死を選ぶようなことが
あってはならないこと。
を強く表明する。

④参加しやすいような工夫
・三歳児検診とのタイアップ
・保育園や小学校の参観との
連携。同伴する幼児の世話
をするボランティア制度の
工夫。

実践記録シリーズ(5)

成人男子のための

堀之内おとこ塾開設

堀之内町公民館

一、はじめに

堀之内町は人口約一万人。公民館は本館のほか、地区活動を中心に事業を展開している七分館により運営がなされている。本館事業は青少年から女性、高齢者までを取り込みそれぞれの分野で活発に展開されているが、ここでは、本年度新規に開設した「堀之内おとこ塾」について、その概要を紹介する。

社会教育事業として公民館で実施されている事業は多様であるが、近年どこの自治体でも成人のおとこを対象としたものは停滞気味である。

当町でも、昭和五十年代までは地域青年団のリーダーを中心に、地域活性化やまちづくりについての取り組みが論じられ実践された経緯を持っている。当時は、公民館も実施に当たっては、率先して企画段階からこれ

日時	学習内容	備考
6/12	開講式、開設趣旨説明、塾長選出、年間プロ検討	町長出席 19:30~22:00
7/17	講話と話し合い 町勢要覧に見る町の現状	企画係長 19:30~22:00
8/23	町活性化のための施策展開について ～オートレース場外車券売場誘致をめぐる～	町長、町会議員出席 19:30~22:00
10/24	「朝までトーク」の実施プランニング	19:30~21:30
11/25	朝までトーク ～明日の堀之内を語る～ 「まちの魅力」 「ふるさとを知る」 「地域おこしと行政」 「結婚」、「子育て」 「家庭教育」 「広域行政と町村合併」 「町民体育館の運営」	20:00~8:00

に携わってきた。
このような事例があることから、「成人男性」に焦点をあてた事業の実施こそ、今日的な当町の課題であると考え、「塾」開設の趣旨等を次の通りとし、塾生を募集した。



(趣旨)

地域活動に熱意のある者の発掘とまちおこし・地域おこしグループの活動助長を目指すとともに、他の実践集団などとの交流を通じて、その輪を拡げながら地域活性化を図る。

なお、事業実施に当たっては、生涯学習の視点から「地域づくり」を重点に意識した活動を展開することとする。

とする。
(対象者) 一般成人男性概ね20代、40代 25名
(参加費) 実費

広報紙「町だより」を通じての応募者18名。年齢的にも各世代の者が集まり、職業も商業を中心とした自営業から会社員、公務員など、また、未婚者あり既婚者ありと幅広い層を取り込むことが出来た。

二、事業の展開

事業の展開内容は上表のプログラム概要をもって説明に代える。ここでは、特に盛り上がりを見せた「朝までトーク」の一端を紹介する。

なぜ今「朝までトーク」か、表に示したプログラムの何回かの「塾」を実施展開した過程で、テーマを定めての研修・討論は、施設の制約があつて「時間切れ」「次回持ち越し」が多かつた。そのため、どの会合の時にも話し足りない、不満足な結果に欲求不満が高まつた。そうしたことから、「長時間討論」の声を塾生の中から盛り上げるようになった。

会場はメンバー空白地域に設定。塾のPR効果と、地域への意識づけの両面を狙って開くことにした。

当日の討論内容について、例えば、「子育て・家庭教育」では、わが子を思う親の域を超えて地域で育てる青少年を展望する熱い意見が続出した。後日新潟日報など地元紙に紹介された結果、一部関係者からブレイキをかけられるという事態も生じることとなった。

誰もが経験のない長時間討論ではあつたが、やり終えた時の思いを今振り返ってみると「本音を出しあえた」と断言出来る。これをどう発展させていくかが次の課題となっている。

三、明日に向かって

これまでに重ねてきた「塾」活動の中で、地域の課題が明確になつてきた。おとこ塾の今後を左右する大命題もある。ややもすると、言いっ放し聞きっ放しとなつて、真の解決策を見いだせないで来たことを考える。もう一歩踏み出すことが、この「おとこ塾」に求められている、と捉えたい。特に、「朝までトーク」の中で真剣にお互いの思いを吐露したことに、参加者のそれぞれが認識を新たにしたいに違いない。ようやく熱い男の集団「堀之内おとこ塾」が立ち上がった。明日の陽光が燦々と注がれることを期待している。

実践記録シリズ(6)

文部省委託広域学習圏事業

夢あるまちづくり講座

神林村、荒川町、関川村連携の試み

近年、生涯学習の普遍化につれて、自治体の範囲を超えた広域市町村圏事業の展開が必要とされるようになった。

ここに紹介したのは、文部省委託のモデル広域学習圏事業として取り組んだ、県北の岩船郡神林村、荒川町、関川村の三町村連携による事業の試みである。

「夢あるまちづくり」をテーマ下表のとおり事業が展開された。まずは、その事業結果終了後の感想を三町村の担当者から報せてもらった。

こんな「まち」が好きなんだ

神林村「青・成年部門」

正直いって、青・成年部門が割当たったときは当惑した。二、三十代の受講生が集まるか疑問であった。しかし、村内の農協、商工会などから推薦された六名の実行委員が協力的で、受講生の募集に奔走してくれた。

講座の趣旨やねらいについて理解を求め、あとは実行委員に任せた。講座内容、講師選定、当日の運営など何度か相談を重ねた。受講者の参加も割によく、「まちを考えるいい機会となった」など感想を寄せている。

実行委員はこの事業の継続に

意欲を燃やし、仲間集めに懸命である。村では新年度予算に計上し、村の活性化を夢見ている。講座を提供し、温かい激励をくださった県教委に感謝したい。

(神林村教育委員会社会教育指導員 前田 喜春記)

われらまだまだ現役

荒川町「高齢者部門」

講座のテーマを「われらまだまだ現役」とし、高齢者がより豊かで生き甲斐をもった人生を送ることを目指し、これまで培ってきた知識・技能を地域の発展に資するかを課題とし、事業を進めた。

参加者は、概ね六五才平均、

四名(荒川町二十、神林村十九、関川村三名)で、講座は、五回の計画で、①ポランテアについて②地域社会を知る(施設見学)③健康を保つには④豊かな人生経験を活かし⑤良い人間関係を作るにはで、講話や話し合いの形式で実施。

このような連携・分業による講座方式は、多様な住民ニーズ



に比べうるこれからの一つの学習形態であり、また、限られた予算のなかで実施する方法として、この方式は有効である。

(荒川町教育委員会社会教育課 土田 正敏記)

キラリ輝く子どもたち

関川村「幼児・児童部門」

「夢あるまちづくり講座」の

プログラム

◆神林会場 青・成年の部 テーマ：こんな「まち」が好きなんだ

回	期日	時間	学 習 内 容	会 場
1	6月17日(土)	19:30~	夢あるまちづくりパート1~まちづくりの夢を聞き、考え、語り合う~	改善センター
2	7月16日(土)	13:30~	アウトドア講習会~仲間や家族とのキャンプの楽しみ方~	南大平キャンプ場
3	11月18日(土)	19:30~	夢あるまちづくりパート2~まちづくりの夢を聞き、考え、語り合う~	改善センター
4	1月21日(日)	13:30~	ワークショップまちづくりの手法	改善センター

◆荒川町会場 高齢者の部 テーマ：われらまだまだ現役

回	期日	時間	学 習 内 容	会 場
1	7月4日(火)	13:30~	心ふれあう住みよい地域づくり~地域の今日的課題とポランテアの心~	荒川町公民館
2	8月1日(火)	9:00~	身近な地域社会を見てみよう~施設見学~	荒川町公民館
3	9月5日(火)	13:30~	若返りと健康増進~身体操とストレッチ~	荒川町公民館
4	10月4日(火)	13:30~	豊かな人生経験を生かした家庭や地域の中で果たす役割	荒川町公民館
5	11月15日(火)	13:30~	地域社会における、よりよい人間関係をつくるには	荒川町公民館

◆関川村会場 幼児・児童の部 テーマ：キラリと輝く子どもたち

回	期日	時間	学 習 内 容	会 場
1	7月9日(日)	9:00~	自然はこんなに素晴らしい~初夏の山を肌で感じよう~	東俣ぶな原生林
2	7月22日(日)	14:00~	絵本の読み聞かせパート1~親子でお話を楽しもう~	村民会館
3	7月26日(火)	19:30~	絵本の読み聞かせパート2~本の読み聞かせをやってみよう~	村民会館
4	8月19日(土)	19:00~	講演会~キラリと輝く子どもたち~	村民会館
5	9月9日(土)	14:00~	子どもたちの創造性を高めようパート1~楽しくつくりよう~	村民会館
6	10月14日(土)	14:00~	子どもたちの創造性を高めようパート2~楽しく描こう~	村民会館
7	10月22日(日)	9:00~	自然はこんなに素晴らしい~初秋の山を肌で感じよう~	東俣ぶな原生林

本村の担当は、幼児・児童編。テーマは「キラリと輝く子どもたち」。自然を友達にすること、創造性を高め心を豊かにすること等を念頭に、親子でいろいろな体験することを主目的にプログラムを組んだ。

牛乳パックを使った手作りおもちゃづくり、色の三原色と白を使っての色づくり、絵本の読

み聞かせ、そしてブナ原生林での遊び。親子もそれぞれ、いきいきとして取り組んだ。

村民の行動はいまや広域化しており、いろいろな課題は残りますが、今後このような広域的な連携事業の必要性を強く感じ

た。
(関川村社会教育課生涯学習係長 平田 誠記)

平成7年度公民館月報主要記事索引
(数字は発行月を示す)

特集			
4	公民館だよりで地域の再発見	小高友一	朗
5、6	フィリピンのある少数民族(農耕民)社会に学ぶ(その1 その2)	木佐木哲	朗
7、8	越佐の自然にロマンを求めて(その1 その2)	長前義介	幹部
9、10	地域社会を生きるI、II	編集	部
11	民間教育産業への公民館援助	ありかた	光江
12	生涯学習時代に対応する公民館職員	竹森誠喜	本種
1	男女共同参画社会に向けて	本種	関
2	危機管理とボランティア	本種	関
3	いじめ問題と公民館	本種	関
視点			
4	非常時ま心構え	佐藤	文
5	「月報」は人生勉強のスタート	藤井	文
6	子どもが生きる学社連携	土屋	文
7	健康づくりに取り組もう	田吉	文
8	もう一つの魅力を	石高	文
9	地域づくり	高石	文
10	青少年教育	石高	文
11	身が口のうえにあること	高石	文
12	公民館合同美術展	高石	文
1	女性会館は1年生	高石	文
2	親と子の楽しい映画会	高石	文
3	地域ぐるみ「いじめSOS相談」窓口を	高石	文
ひろば			
4	生涯学習促進は住民の自主活力を生む	重子	武
5	地域起こし分館活動	英	武
6	生涯学習に人生を教えられて	高木	武
7	かかわって町起こし	高木	武
9	「米大舟」伝承芸能で地域の活性化	小大	武
10	汗をかかない活動はない	大平	武
11	生涯学習の地域交流	大白	武
12	共生の時代	小谷	武
1	公民館事業に寄せて	小谷	武
2	これからの地域スポーツクラブと	小谷	武
3	期待される指導者	小谷	武
3	集会活動「講演と主題歌」	小谷	武



中越地区・公民館長・主事研修会開催 高等教育機関との連携について

さる二月二十日(火)、中越地区公民館長・主事研修会が長岡市造形大学を会場に開催された。

研修主題は「高等教育機関との連携について」というもので生涯学習時代を反映した時宜を得た課題への取組であった。

講師に同大学学長の豊口協氏を迎え「生涯学習とデザイン」と題する講義を拝聴した。「伝統は挑戦の積み重ねから生まれ」という氏の信念の披瀝、さら

に、造形は感性の具象であり感性は生命への畏敬と感動によって磨かれるという説に、参加者一同深い感銘を受けていた。

また、実践発表では長岡市中央公民館主査の木元実氏による「高等教育機関との連携について」の発表があった。

長岡市中央公民館が市内の大学と連携して「市民大学」を開催している実際について、「連携パターン」「連携事業のイメージ」などにかけて具体的な発表がなされていた。

この種の研修に有りがちな、

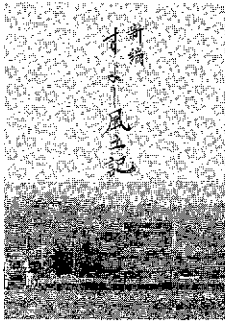


時間不足が気になった。説明不足や質疑不足がせつかくの発表者の労に報いるには礼を失したもので残念であった。

ともあれ、大都市公民館の在

り方としてはもちろん、中小都市や町村の公民館においても、これからの公民館の在り方として一石を投じた研修会に敬意を表したい。(上村)

新編すよし風土記



長岡市栖吉公民館長から「新編すよし風土記」という冊子が贈られてきた。

これは、栖吉公民館竣工十周年の記念事業の一環として発刊したもので、「栖吉公民館だより」(平成7年12月号で393号)に毎月連載されている「新

恵贈資料紹介

編すよし風土記」百号までをまとめたものである。

どの号にも、地区館ならではの内容が取り上げられ、自分たちの地区に対する誇りと伝統と愛情が充満している。

B5判 百十五頁 希望の向きは、栖吉公民館へ問い合わせたい。

(電) 〇二五八・三五九八・三五

あとがき

◆「いじめ」の問題がますます深刻さを増しております。その対応策として、学校と家庭と地域社会の連携が指摘されていますが、このうち「地域社会」の中には、公民館も当然のことながら視野に入っているものと考えられます。

◆都合により、「サークル交流」「素顔拝見」は休みました。(上村記)

表紙解説

ポケ(放春花)

毎年三月上旬に、日本ポケ展が開催される。冬の厳しい新潟でこの会場だけは一足早い春を感じさせる。

(小須戸町中央公民館)

発行所 新潟県公民館連合会
〒951
【新潟市川端町2-9・県林業会館内】
【TEL・FAX (025)224-6073】
発行人 会長 細川 仁
編集人 事務局 上村 捨二郎
【定価1部150円 年共1,800円】